

躍進

新琴似中学校
学校だより

令和6年度

7月号(第4号)

令和6年6月21日

『子どもの姿は、我々の普段の関わりの鏡写しである』

2学年

1年前の校外学習の日、グラウンドに集合してくる生徒たちを見て「あちゃー…」と軽く頭を抱えたことを覚えている。集合時間直前になっても、自分たちで整列隊形を作ることができなかったのだ。「そろそろ集合時間になるよー」⇒「ほら!時間見て!早く並んで!」⇒「もうやばい!!学級代表たちも先生方と一緒に声かけ手伝って!!できれば総務係も!!」……言われてやるのでは意味がない。「言われたから」が動機で行動するのならば、それは自分の人生を自分で生きていることになるだろうか。ルールを守ることも、人に優しくすることも、勉強することも、全て「自分がそうすべきだと思うからやっている」と言える人に育って行って欲しい。我々教師陣は、そんなことを願いながら学年の生徒たちと関わってきた。

5月23日、宿泊学習に出発する日の朝。私が見たのは、誰が声をかけなくとも自分たちで整列隊形に並んで待つ生徒たちの姿だった。最初に来た子たちは、集合時間の10分ほど前に到着したが、まだ誰も並んでいないグラウンドで、それぞれ自分の学級の自分の班が並ぶであろう位置まで行って待機していた。その後に来た子たちも同様で、ついに教師陣が特に声かけをしないまま整列隊形が完成してしまった。たった1年で、「言われたから」ではない動機で行動できる学年になりつつあるという事実を目の当たりにしたのだ。

今年度の2学年合唱は『正解(RADWIMPS)』になった。有名なJ-POPの曲ではあるが、合唱バージョンは各パートの音程が複雑で難しく、かつ宿泊学習までの期間が短く練習時間がほとんど取れないため「宿泊学習で歌えたら最高だけど、今回は諦めた方が良さそうですね」と教師陣は話していた。中途半端に練習し、不完全な歌を披露して学年生徒たちに恥をかかせるのも忍びない…と考えたからだ。しかし生徒たちはそんな教師陣の思いを知ってか知らずか「宿泊学習で歌いたいです!」「合唱なしでは、学年みんなの心をひとつにすることはできません!」と申し出てきた。渋々「じゃあ合唱に挑戦してみませんか!」と乗ったもののやはり不安は拭えず、随所で「宿泊学習の時点では、1番まででもいいんじゃない?」「パートを分けずにみんなでメロディを歌うのもアリかもよ?」と提案する弱気な教師たちを尻目に生徒たちは練習を続け、なんと宿泊学習当日には最後まで歌いきってしまった。我々教師陣の想定や期待を、学年生徒たちが堂々と真正面から超えて見せたのである。

子どもたちの成長は早い。成長後の姿も、私たちのイメージする枠には収まりきらない。私たちはいったい、何をしてあげられるのだろうか…そんな葛藤を頭の片隅に抱えながら、「自他の違いを受け入れることの温かさ」や、「大きな目的を見失わないことの大切さ」を日々伝え続けている。本当に伝わっているのか、自信がなくなることもあるが、今回の宿泊学習での姿は我々教師陣を大いに励まし、勇気付けてくれた。保護者の皆さまとともに子どもたちに寄り添い、伝え続けてきたことが、きちんと成長につながっていることが感じられた。

新琴似中学校の教育、及び2学年の諸活動への御理解と御協力、いつも本当にありがとうございます。義務教育の残り期間は1年8か月。子どもたちの幸せな人生のために頑張ってまいりますので、引き続きよろしく願いいたします。



「新芽の輝き」

Ⅰ 学年

184名の1年生が新琴似中学校に入学して3か月が経とうとしています。生徒たちは、この3か月間、新たな仲間とともに、学校生活の中で、様々なことを学び、あらゆる場面で「中学生」として大きく成長しました。

日常生活では、本校の生活の三本柱である「あいさつ」「時間」「環境整備」の意識が少しずつ身に付いてきています。入学直後は慣れなかった「敬語」も今では当たり前のように使えるようになりました。生徒たちは、はじめは「やらされる」「ルールだから」と思って取り組んでいたことも、学年協議会が中心となって進めた「生活向上週間」の取組を通して、「誰のため」の「何のため」の活動なのかという意味や価値を考えることを経て、「自分たちの力で良くしよう」という姿勢が見え始めてきたことが大きな成長です。そのような雰囲気の中、1学年の旅行的行事である「校外学習」の取組が始まりました。

「先生、電車の時刻はどうやって調べればいいんですか?」「びっくりドンキーは『札幌らしい』お店なのかな?」「麻生駅から新さっぽろまでどれくらいの料金がかかるのかな?自分たちの班は1日乗車券を買った方がいいのかな?」といったような質問が飛び交う中、自主研修のコース作りを行いました。一人一人がテーマに沿ってどこに行けばよいか、どんなことを調べてくるのかを考えていました。

また、班には6つの係があり、それぞれの係員はそれぞれの役目が割り当てられています。班員全員で協力しなければ、校外学習を成功させることはできません。皆、悪戦苦闘しながら様々なことを学び、当日の朝を迎えました。残念ながら当日は予想外の雨に見舞われたこともあり、出発集会の場所を体育館に変更しました。その後、学級ごとに若干の時間差をつけて地下鉄麻生駅かJR新琴似駅へ向かいました。

行き先は、円山動物園、白い恋人パーク、青少年科学館、札幌ドームなど、札幌市内全域にわたりました。これらのテーマ別の見学先をいくつか回り、昼食も班ごとにお店で食べました。

大人の力を借りずにこれほどの距離を移動したのは初めての経験かもしれません。班によっては、行先や昼食場所の希望が分かれてなかなかまとまらなかったり、道が分からなくなって現地の人に尋ねたりと、様々な問題を乗り越えながら自主研修を成功させました。見学自体に加え、多くの貴重な経験をすることができたのではないかと思います。

大きな事故やトラブルもなく、無事、新琴似中学校に戻ってきた皆の顔には、団結してやり遂げた、という自信の色が浮かんでいたように感じられました。

もちろん、成果だけではなく、課題も見つかったと思います。ですが、きっと来年の宿泊学習につなげてくれると信じています。そのためにも、これからの日常生活から「当たり前値の向上」を全員で目指して行ってほしいです。

さて、事後学習では、班ごとに校外学習の取組をまとめたポスターを作り、学級で発表会を行いました。どの班も、班員同士で最後まで協力して活動することができていたと思います。保護者の皆様は、1学期末懇談の際にぜひご覧いただければと思います。

最後になりますが、校外学習の実施にあたり、保護者の皆様をはじめ、多くの方々のご協力をいただき、感謝いたします。1学年184名一人一人がさらに大きく成長していけるよう、これからも支援していきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。